

SOLE! FIGHT

新潟の明日を担う

活力企業

春や秋の植え付けシーズンになると、ひらせいホームセンターの店頭でたくさん販売される野菜苗。その九割近くを生産しているのがひらせいファームだ。丈夫で鮮度が良く、育ちも良いと評判の野菜苗は、販売数が右肩上がりと大人気。その品質の秘密は、苗づくりのプロと販売のプロがタッグを組んだこと。「明るく！楽しく！儲かる農業!!」をキャッチフレーズに、新潟の野菜づくりをバックアップしている。

株式会社
ひらせい
ファーム

代表取締役社長

清水 泰成 さん

栽培と販売のプロがタッグ

丈夫な野菜苗を鮮度良くお客様のもとへ

野菜苗の生産・販売を行っているひらせいファームは、平成二十八年に設立。現在、新潟市西蒲区にある二十四棟のハウスで野菜苗や青果を生産。全量をひらせいホームセンターが買い上げ、各店舗で販売されている。ひらせいの野菜苗は丈夫でよく育つと評判で、毎年リピーターを増やしている。出荷量がピークになる春には、一日に十〜十二万本の苗を送り出すというから驚きだ。

同社を設立するきっかけとなったのは、ひらせいホームセンターの代表取締役でもある清水泰成社長が平成二十七年に東京からUターンして入社し、生産者の苦勞を肌で感じたことにある。「祖父の代までは西区内野で農業をやっていた、農家の知り合

いも多かったのですが、帰ってきて話を聞いてみると、農業をやめたとか、やめようと思っているという人ばかりで。ハウスやトラクターなどの設備を更新する負担が大きく、生産したものの価格も安定しなくて、収入も不安定なのが悩みだというんです。ちょうどその時期に、新潟市がいわゆる農業特区に指定されて、規制緩和がありました。そこで、当社にはホームセンターというプラットフォームがあるので、農業法人を作って、法人がハウスなどの設備を用意し、そこで皆さんを一緒に生産してもらい、全量をひらせいが買い取る仕組みにしよう。みんなで明るく、楽しく、儲かる農業をしようというのをテーマに十二棟のハウスでスタートしました」。

タッグを組んだのが、それまでもひらせいに野菜苗を納入していた山本苗屋の常務の山本学さん。「まずは挑戦してみよう」が信条の山本さんが周囲に声をかけ、十人ほどの仲間と共に生産を行っている。

丈夫な苗になるポイントのひとつが、地元農園が開発した「もみ殻堆肥」を使っていること。苗の免疫力が上がり、育ちがいいそうだ。産業廃棄物になっていたもみ殻を利用した肥料で生産することで、環境循環型の農業も実現している。

春は野菜五十品目・百五十品種ほど、秋は二十品目、六十品種ほどの苗を生産。ひらせいの店頭に並ぶ苗を見ると、背丈も一定で葉もイキイキしていることが分かる。





ハウスの近くに山と積まれている
もみ殻堆肥



レタスに続き、
冬のハウス活用
としてミニ大根
も生産を始めた



ブロッコリー(左)とキャベツ(右)の苗。春苗は種まきをしておよそ
1カ月でポットに移植し、さらに1カ月育てて出荷。秋苗はサイクル
が2週間ずつになる



栽培部門の責任者であり、株式会社山本苗屋の
常務取締役でもある山本
学さん



天候や成長具合を見ながら水管理などで
出荷のタイミングを調整する



取材に何った10月上旬は玉ネギ苗の出荷の終盤戦。朝、掘り出した苗を手作業で50本ずつ
束ねる。苗の中でも玉ネギが一番手がかかるそうだ

玉ネギの苗は露地と
ハウスで栽培。天候
に左右されずいずれ
かで作業ができて合
理的であるとともに
安定供給にもつな
がっている



植えて、育てて、 食べる楽しさを味わってもらいたい

ひらせいの野菜苗の品質を支える
もうひとつの特徴が、配送体制だ。
ひらせいでは、各店舗ごとに苗の発注
を行っている。その日の午前中に注文
すれば、翌日にはひらせいファームから
苗が店に届く仕組みだ。担当者は
数日で売り切る数を注文するので、
売り場には常に新鮮な苗が並ぶ。

ファーム側でも毎年の販売の動きを
踏まえ、注文が来る時期に合わせて
苗を育成。しかし、気候は毎年異な
り、成長具合も違う。その調整につ
いて山本さんは「感覚です」と話す。
「気温や湿度も見ますが、ハウスに入
れば、苗にとっていい環境かどうかは
分かりますね。例えば天気が悪くて

苗の植え付けができないような日が
続くと、出荷のタイミングが予想より
遅れることもあります。そのときは
注文が来るまで成長が進まないよう
に水を控えたり、葉水だけにしたり、
という感じで調整します」。聞くほど
に、プロの仕事の凄さを感じる話だ。

野菜苗は春と秋に生産されるもの
がほとんどなので、ハウスが空く時期
がある。清水社長は「葉物が少なく
なる冬に、レタスを作れないかな」と
提案。山本さんは「冬の新潟でレタス
は不可能に近いかなと思ったんです
が、とりあえずやってみたら上手く
いったんです。食味もえぐみが無く
て、おいしいですよ」。他にもブロッ
コリー、大根などもひらせいの各店
舗で、手頃価格で販売されている。
ひとつのハウスで一年のうちに四〜五
品目を生産するというのは、新潟では
かなり稀なケースだ。

消費者の皆さんには、ひらせいの
野菜苗で、植える楽しさ、育てる楽し
さ、そして食べる楽しさを体験して
もらいたいと話しておふたり。「根がど
れだけしっかり伸びるかが重要な
ので、プランターを使うなら苗はひとつ。
多くても二本まで。もみ殻用土を
使うのもおすすめです」。

次のシーズンには、ぜひ、ひらせいの
野菜苗で収穫の楽しさを体験して
みてはいかがだろうか。

●問い合わせ

株式会社ひらせいファーム

〒950-2063

新潟市西区寺尾台2丁目3番3号

TEL 025-383-4141 (代表)

FAX 025-383-4150



ひらせいホームセンターの苗売り場



ハウス外観